

令和 7 年度 県立水戸桜ノ牧高等学校自己評価表

目指す学校像	21世紀を担う若者としての勤労観・職業観を培うために、高い次元の「文武両道」を教育目標に掲げ、進路指導の充実と部活動の奨励に努め、思いやりのある豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 グローバル化が進む中、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う等、本校が創立以来推進している国際教育の振興に努める。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	卒業までに次のような生徒を育成します。 ・21世紀を担う若者としての勤労観・職業観を備え、自主的・自律的に学習に取り組むことができる人財。 ・思いやりのある豊かな心を持ち、将来への夢を育むことができるたくましい人財。 ・異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を備えた人財。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 ・主体的、対話的で深い学びの推進を図るとともに、上級学校への進路実現を目指す。 ・「文武両道」のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 ・国際理解教育、国際交流活動の推進を図り、国際化に対応できる人材の育成を目指す。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	次のような生徒を求めています。 ・中学で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身につけようとする生徒。 ・部活動や様々な学校行事に意欲的に取り組み、協働的な学びを大切にしようとする生徒。 ・本校で身につける資質・能力を発揮して、様々な課題に主体的に取り組む、自己と異なる意見も尊重し、国際社会で活躍しようとする意欲のある生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>進学では、国公立大113名、私立大610名が合格した。<u>授業改善に組織的に取り組み</u>、学校全体の授業満足度は3.5であった。</p> <p>部活動等への高い加入率を維持し、弓道、陸上競技、水泳が全国大会に出場した。<u>部活動・行事等を通じて生徒の課題解決力が育っている。</u></p>	自主的・自律的な学びの推進	① 生徒が自己を理解し、学習方法を試行錯誤するなど学習を調整しながら粘り強く取り組む。 ② 生徒がICTを活用しながら協働的に学ぶ。 ③ 教職員と生徒で授業をよりよいものにし、授業満足度平均3.5以上を目指す。	A
	安心・安全な学校づくり	① 教職員と生徒が協働して、けじめある温かな学級づくりを行う。 ② 生徒が悩みや不安を相談できる教育相談を実施する。 ③ 校内安全・施錠の確認徹底および危険箇所の早期発見に努める。	A

別紙様式2 (高)

<p>国際教育では、短期留学と英語研修等を実施し、生徒の意欲を引き出すことができた。英語検定準1級に5名が合格することができた。</p> <p>学習や友人関係の不安から長期休業明けに不安定になるなど、<u>支援の必要な生徒</u>が増えている。通学途中の自転車事故や周辺住民からの苦情件数は変わらず、安心・安全な環境づくりが課題である。生徒が安心できる居場所づくりを学校全体で進める必要がある。</p>	<p>文武両道の実践による 生徒の全人的成長</p>	<p>① 特別活動、部活動を通して、自分たちで目標を設定し計画実行する課題解決力とコミュニケーション能力を育む。</p> <p>② 学校全体で文武両道の価値観を共有し、励ましあう学校風土をつくる。</p>	A		
	<p>国際理解学習による生徒の チャレンジ精神高揚</p>	<p>① 国際理解学習を通して他者理解を深め、他国の課題を自分事として考える意識が高まる。</p> <p>② 各種コンクールや検定への挑戦により、国際社会で通用する英語力を身に付ける。</p>	A		
	<p>教職員が創意工夫する働き方改革</p>	<p>① ICT活用を推進し事務作業の効率化を図る。</p> <p>② 業務のマニュアル化を進める。</p> <p>③ 働き方改革について関係者の理解を得られるよう努める。</p>	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語	基礎学力の向上を図る。	国語に対する興味・関心を喚起し、基礎学力の向上に努める。	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けた創意工夫 教科内での相互授業参観の活性化 個々の学力に応じた適切な課外や受験指導の実施
		生徒が自主的に学習する環境を整え、その態度を育て読解力や表現力の向上を図る。	b		
		読書習慣を定着させる。	b		
	個に応じた授業の展開に努める授業改善を行う。	授業改善のためのICT活用や授業内容に関する情報交換を行い、生徒の実態に合わせた授業実践を目指す。	b		
		生徒による授業評価の授業満足度3.5以上を目指す。	a		
地歴公民	学力の向上を図るとともに成績不振者に対する指導の充実と徹底をはかる。	ICTを積極的に活用した分かりやすい授業を展開し、年間の進度に留意しながら日々の授業を行う。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用事例の教科内での共有 新課程入試への対策 教科内での積極的な相互授業参観 教科横断的な授業の展開
		学習の定着化を図るため問題集やプリントを使用し、平日や夏季課外を実施して、共通テストや難関大学の入試に対応できる生徒の学力向上に更に努める。	a		
	学習意欲を高め、自ら問いを見いだせる授業の展開に努める授業改善を行う。	地理歴史、公民に対する興味・関心を喚起した授業を展開する。	a		
		18歳成年年齢に向けた政治的教養を育むための授業を展開する。	b		
		生徒による授業評価の授業満足度3.5以上を目指す。	a		

別紙様式 2 (高)

数 学	学力の向上を図る。	平日や長期休業中に個々のレベルに応じた課外を実施し、基礎力・発展的学力の向上に努める。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の量や難易度の適切な設定 ・教科内の相互授業参観の促進 ・ICT 教材の共有と効果的な活用の研究
		観点別評価が行えるような工夫をとり入れた考査やその他のテスト、課題を利用して学習の理解度を把握する。また、生徒自身が学習状況の振り返りを行える機会を設けるなど、個々の生徒の実情に応じた指導を行う。	a		
	自主学習習慣の定着に努める。	問題集や週末課題等を定期的に点検し、わからないことは随時質問できるような雰囲気づくりに努める。	b		
	数学の本質を理解する授業への改善に努める。	教科担当者同士で授業技術やICTの活用方法等の情報交換を綿密に行い、新課程入試へ向けた指導力の向上に努める。 生徒による授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	b a		
理 科	基礎力・基本的な学力の定着を図る。	授業計画を立て、教科間で連携をとりながら計画的に授業を進め、学習内容の定着を図る。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・理科内の各教科間で密に連携し、実験や観察を通じて思考力等の課題解決能力を育む ・ICT の活用アイデアを試行錯誤・共有し、生徒の知的好奇心を刺激する
		授業中以外でも質問等を受け付け、放課後や長期休業中の課外を計画的に行い、受験体制を整えて受験に臨めるようにする。	a		
	自然に対する興味・関心を持たせ、探求心を育てる授業の改善に努める。	観察・実験を通して身の回りの自然環境を理解するとともに、目的意識を持って観察・実験を行い考察する力を養う。ICT 機器を効果的に活用し、生徒の知的好奇心を育て、探究する素地を養う。	b		
		事象に対しての定性的、定量的な分析ができるようにする。	b		
		生徒による授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	a		
英 語	外国語によるコミュニケーション能力の向上	これまでに学習したことを活かし、主体的・対話的学びにつながる、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を充実させ、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	b	A	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い ICT 活用方法の追求 ・生徒の理解度を高められる授業の展開
		ALT とのティーム・ティーチングやコミュニケーション活動といった学びを通して、外国語の背景にある文化に対する理解や他者への配慮といった生徒の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を豊かにする授業を行う。	a		
	3年間の段階的指導による進路実現の支援	語彙や文法といった言語の基本的な働きを理解させるために、電子黒板やタブレット等のICTを活用した授業を実践し、指導力の向上に努める。	a		
		授業での学習を補ったり、発展させたりすることのできる課外指導を実施する。	a		
		普段の授業に加えて、ALT とのティーム・ティーチングや、個に応じた指導等を通して、高校卒業時に 60% の生徒に CEFR B1 レベル(英検 2 級合格レベル)の英語力を身につけさせる。	b		
	英語運用能力を向上させる授業への改善	教科担当者同士で教授内容やICTの活用方法等を共有することで、教員の指導力向上に努めたり、クラス間の指導内容の差異を減らしたりする。	a		
		生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	a		

別紙様式 2 (高)

保健体育	生徒一人ひとりの健康の保持増進及び体力の向上を図る。	新体力テストの結果を、自身の現状把握や目標設定に活用する。	b	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「男女共修」取り組み方の工夫 (短時間かつ限られた種目での実施のため、技量やルールの配慮を考える) ・主体的な取り組みのための ICT 活用 (動画分析やデータ作成・発表等)
		県民体操の毎時間実施や体づくり運動、水泳や長距離走を実施するとともに、男女での違いを理解しながら体力向上の手だて等の工夫を促す。	a		
	運動・スポーツ活動の計画的実践方法を習得する。	男女共修授業や選択授業を通して、安全面の配慮や効果的な実践方法を習得させる。	a		
	運動・スポーツに親しむ態度を育成する。	男女共修授業や体育的行事を通して、協調性やマナー、運動に主体的に取り組む態度を育成するとともに、勝敗を楽しみ、他者を尊重する態度を育てる。	a		
	ICT 活用をした健康・安全教育を実践する。	知識が定着するように、視聴覚教材や ICT 機器を利用するとともに、生徒が主体的に授業に参加できるよう、効果的な ICT 活用方法を工夫する。	b		
	個に応じた展開を工夫する。	生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	a		
芸術	幅広い活動を通して、生徒一人ひとりの個性の伸長を図るとともに、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	幅広い活動を通して、芸術への興味関心を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせた授業内容の工夫 ・表現や鑑賞能力向上のための ICT の積極的な活用
		作品に関する歴史や文化的背景について理解を深め、芸術のとらえ方や考え方を深化させる。	a		
		鑑賞活動を通し、多くの作品に触れ感性を磨き、想像力や創造力を豊かにして、自己表現能力を高める。	b		
	生徒の実態に応じた展開に努める。	生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	b		
家庭	生徒の自立を促す。	基礎的・基本的な知識と技術の定着を図るため、実践的学習を多く取り入れられるよう指導計画・教材の見直しを行う。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的技術の定着が図れる授業展開と教材の工夫 ・課題意識の醸成につながる題材の検討
	課題解決能力の向上を図る。	事例検討や対話型学習を通して、広い視野で物事をとらえ、自分の考えをもち表現する機会を設ける。	b		
	個に応じた授業の展開に努める。	生徒が安心して授業に臨めるよう、生徒個人の状況に対応できるような ICT 機器の活用を試みる。それにより授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	a		
情報	主体的に情報を収集し、適切に選択、加工し、外部に表現できるようにする。	情報モラル、情報デザイン、プログラミング実習、グループ活動、問題解決等を通して、現代社会の中で必要な基本的な知識・技術の定着に努め、自ら考えて行動できる力を養う。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの理解だけでなく、活用にあたり結びつくように指導する ・生徒の実態に応じた授業と基礎基本の定着を意識した授業を進める。
		考査や課題、実習レポート、確認テストを用いて学習の理解度を把握し、個々の生徒の実情に応じた指導を行う。	b		
	情報モラルの必要性や情報発信に伴う責任を理解できるようにする。	情報モラル教育を通して、著作権や個人情報の保護の重要性を認識させ、情報社会を生きるために必要な倫理観を養う。	a		
	個に応じた授業の展開に努める授業改善を行う。	生徒の実態に合わせた授業を行い、生徒による授業評価の授業満足度 3.5 以上を目指す。	b		

別紙様式2 (高)

教 務	授業時間を確保する。	急な授業変更や填補にすみやかに対応し、生徒に不利益が生じないように努める。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の見直し等追求を続ける。 ・成績処理など各業務の作業方法を整備する。
	教育課程の整備完了を目指す。	新教育課程において指導計画、指導方法、評価方法等についての研究を進める。	b		
		教育課程の円滑な運用を目指し、問題点等の修正を行って本校の教育課程を改善する。	b		
	本校の魅力発信を図る。	学校説明会のよりよい実施方法を模索し、中学生が受検したくなる行事になるよう努める。	a		
特別活動	HR活動を通しての自己研鑽を図る。	各学年と連携するとともに、LHRの更なる充実を図る。	b	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年と連携し、豊かな人間性を育てる取り組みが必要になってきている。 ・部活動運営方針に沿った運営がなされるよう、情報提供の機会を増やす必要がある。
		日常のHR活動や各行事を通して、豊かな人間性を育てる。	b		
	生徒会活動や行事の活性化に努める。	水桜祭・クラスマッチ等の行事が、生徒主体で開催できるように支援する。	a		
		生徒会が中心となり、より良い学校生活を送るための取り組みが生徒主体で行われるように支援する。	a		
	部活動を奨励する。	高い次元での文武両道を実現するため、加入生徒の競技力や技能向上に対する意識を高める。	a		
		定期的な部顧問会議を開き、新たな運営方針に沿った活動のなかで有意義な活動ができるよう、情報交換する。	b		
		水桜会館・部室・トレーニングルーム等の管理と整理に努め、主体的に取り組める環境を整備する。	a		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、学習に取り組める環境づくりを目指す。	端正な服装・頭髪の指導に努める。	b	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学校作りを目指し、職員間で足並みをそろえ、生徒に丁寧に指導していく。 ・自己指導能力を養うために、自らが考えて行動、判断できるように指導していく。
		挨拶や正しい言葉遣いの励行、明るい校風づくりに努める。	a		
		携帯電話の使用や授業始業時の準備など、学習にしっかりと取り組むことができる環境づくりを目指す。	b		
	交通安全教育について、関係諸機関や地域との連携に努める。	交通事故防止と交通マナーの向上に努める。	b		
		交通安全の理解及び緊急時対応の習得に努める。※自転車乗車時のヘルメット着用は、推奨する。	a		
		保険加入、自転車点検等、自己管理ができるように努める。	a		
	安心・安全な学校の環境づくりに努める。	生徒の自己指導能力の向上を目指し、社会で活躍できる人間育成に努める。	b		
		保護者との連携を密にするとともに、いじめの早期発見に努める。いじめが発生した場合、早期解消に積極的に取り組むとともに、関係諸機関との連携に努める。	a		
		自己肯定感を醸成し、他者を認め、モラルのある考えや行動ができるように努める。	b		

別紙様式 2 (高)

進路指導	各種進路情報の一層の充実を図る。	大学入学共通テストや各大学の入試制度などについて、学年・生徒へ適切に情報を提供する。また、オープンキャンパスや各学校の体験事業等への積極的な参加を促すための情報提供を行う。	a	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を自分事として考える意識の向上（生徒が行動するための援助の重要性）、各学年との連携を深める。 ・大学入試の多様化に対応するために組織的に生徒の志望校合格に向けて指導する体制を整える。 ・トップレベル課外や3年生学習会などの企画をさらに効果的に運営できるよう再考する。 ・模試の精選、スタディサポートの実施方法などを早急に検討し実行する。生活実態調査をスタサポに組み込ませる。
		大学進学者向けに赤本や過去問の充実を図るとともに、進路に応じて、多様な要望に応えられるように図書を購入を行う。また、書籍の一層の活用を図るため、宣伝をし、貸出冊数を昨年(608冊)より増やす。	a		
		「進路生活実態調査」を実施し、教員に情報提供をするとともに、生徒理解、指導に役立っているかを検証し、生徒が回答しやすく、教員が活用しやすい方策を考える。	b		
	各学年・他分掌との連携の強化を図る。	進路行事や指導の内容について、学年間で共有をし、学年間の差がなくなるように努力する。	b		
		講演会など各行事について、各学年と調整して効果的な指導を行う。また、事後検証をし、行事の充実・精選をはかる。	a		
		生徒に還元できる校外研修の内容を教員へ提供をする。	a		
		進学指導においては、個別の大学に応じた指導をするなど、学年の枠を超えてきめ細かな指導を連携して行う。	b		
		模試、スタディサポートの効果的活用を図る。学年・教科で結果を分析し、対策を共有する。	b		
	各種行事・各種規定について検討する。	類型科目選択でのコース分けでは、文理変更が生じないように事前指導の充実を図る。	a		
		総合型選抜・学校推薦型選抜制度について、より効果的な指導法・指導体制を構築する。	a		
トップレベル課外、模試監督について外部委託を進め、事後検証をしていく。		b			
国際教育	国際理解教育、異文化理解教育を推進する。	さまざまな国の文化に触れ、理解を深める機会として、外部との連携を緊密に行い「異文化理解セミナー」を探究活動につながるような充実した行事にする。	b	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動と国際教育を組み合わせた活動を考える必要がある。 ・オーストラリア短期留学のプログラムの充実を図る必要がある。 ・単発の行事に加え、継続的に英語運用能力を高める企画を考える必要がある。
		オーストラリア短期留学・ブリティッシュ・ヒルズ英語研修を通して、異文化への理解を深め、実践的な英語力を向上させ、グローバル社会に対応できる資質を養成する。	a		
		校外で行われる国際理解教育関連行事やコンテストへの参加を奨励する。	a		
	英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	プレゼンテーションフォーラム等の大会出場者や、部活動での指導の場面でALTを最大限に活用する。また、全クラスで行うティーム・ティーチングの授業を通して、英語で主体的に表現する態度とコミュニケーション能力を養成する。	a		
		英語科と協働し、英検準2級以上の取得、およびそれに準じる英語力(CEFR A2 レベル)の養成を目指し、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。	a		

別紙様式2 (高)

保健厚生	校舎内の美化と清掃の徹底及び防災意識の向上に努める。	公共物を大切にすする心の育成及び校舎内を汚さないマナーの向上に努める。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃に関して生徒の意識を更に向上させる。 ・避難袋を利用した防災訓練等を検討する。(今年度消火訓練を実施)
		校舎内の美化と自主的な清掃作業の習慣化に努める。	b		
		緊急時対応マニュアルに基づき、避難経路の確認及び防災意識の向上に努める。	a		
	生徒の健康管理に努める。	各種検診を実施し、疾病のある生徒については早期の治療や検診を勧める。	a		
		心身の健康の保持増進を目的に、生徒の健康実態を速やかに把握し、担任・担当する教員等と協力して、その問題点を解決するため、学年・校内各部署及び保護者と連携し、健康相談や健康教育等を実施し、カウンセリング等を勧めることで、生徒の学校生活を円滑に進める。	a		
	職員の健康管理に努める。	衛生委員会を充実し「要精密」「要観察」の職員が健康管理医や主治医に相談し、早期治療に専念できる環境づくりを進める。	b		
「定期健康診断」「人間ドック」の受診の習慣化を促す。		b			
図書	図書館の利用状況の充実を図る。	教科・学年・他分掌との連携により、図書館の利用を促し、読書活動を啓発し、情報活用能力の向上を図る。	b	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用能力の育成 ・図書館とスタディホールの利用状況の更なる充実 ・1 学年における「探究」の実施時期の早期化の検討 ・学校の課題解決との連携
		広報活動や行事・研修等を通じて、図書委員会の活性化を図る。	a		
		図書館及びスタディホールの使用マナーを周知し、徹底させる。	b		
	視聴覚機器の充実と円滑な利用に努める。	校内放送機器・体育館放送機器の整備・充実に努める。	b		
		放送委員会の活動の強化とスタッフの養成を図る。	b		
		関連する分掌と連携し、学校放送の円滑な運営を図る。	a		
	3年間を見通した探究の学びを推進する。	教科・学年・他分掌との連携により、教科等横断的活動を通して、課題発見ならびに課題解決能力の向上を図る。	b		
		「探究」を行う意義や目的の共通理解を図るとともに、指導方法の向上に努める。	a		
		探究活動の成果を生徒が発表する機会を設ける。	a		
渉外	委員会活動の活性化を図る。	学年委員会は生徒指導部と連携しながら、積極的に学年行事にも参加を促し、その内容の充実に努める。	a	A	より多くの方に参加いただけるような講演会および研修会の計画立案に努めていきたい。
		教養委員会は研修内容等の精査をし、さらに充実した研修の企画と、その実施に努める。	a		
		広報委員会は、保護者に対し生徒のイキイキした姿が一目でわかる広報誌を作成することに努める。	a		
	PTA・後援会・同窓会の活動の推進を図る。	各会の活動を通して本校の教育活動への理解・連携を促進する。	a		
		諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に活かす。	b		

別紙様式 2 (高)

情報	本校ネットワークの安全かつ適正な管理運営に努める。	情報セキュリティ実施手順をふまえ、ネットワーク上の全校共有フォルダの文書等の安全性の向上を図る。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの更新を進める。OSの統一化を行い、情報の共有化の利便性を高める。 ・各種ソフトウェアの使い方や応用例を教員間で共有化する仕組みを作る。
		情報漏洩及び不正アクセスを防止するとともにネットワーク機器の保守を定期的実施する。	a		
		PC委員会で各教室の電子黒板の点検をする。授業等で使用する際、円滑な活用のサポートをする。	a		
	本校ホームページ・緊急情報メール配信システムの適正な管理運営に努める。	個人情報や著作権に十分配慮し、本校の情報を公開し、教育・部活動に関する情報を広く地域・家庭に発信する。保護者への連絡ツールとしてスタディサプリの活用をすすめる。	a		
		遅滞なく正確な配信に努める。緊急情報メール配信システムについて、教職員限定の配信に利用できるように所属、配信グループの登録を管理する。	a		
	各種機器、ソフトウェアの保守・更新を行い、有効利用を促進する。	職員室のプリンター及び教員用PCを更新する。またそれら機器のソフトウェア等のバージョンアップを行う。	b		
		各種文書、データの安全かつ適正な利用がなされるよう、各部、各学年と連携し、それらの有効利用が図られるように努める。	a		
		タブレット、電子黒板の使用方法及び成績処理システム、各種ソフトウェア等について、各部・各学年との連携を図り、必要に応じて説明会や講習会を企画する。	b		
	1 学年	基本的な生活習慣を確立し、モラルやマナーを身につけ、素直な心や他者を尊重する態度を育てる。	挨拶の励行や場面に応じた言葉遣い、服装や髪などの身だしなみを整える声かけを行う。		
登校時間や始業時間などの時間に対する意識を高める指導を行う。			a		
スマートフォンの正しい使い方について、生徒自身が意識を高められる指導をするとともに、正しく利用できていない場面では、正しく使えるように助言を行う。			b		
学習習慣の確立と基礎学力の定着を目指す。また進路探究を通して、適切な文理選択を、学習・進路指導の重要項目として指導する。		英数国の基礎基本の習得に重点を置いた指導を行う。小テストや補習を通して、基礎の定着を図る。また、課題超過を避けるため、学年内で各教科の課題の量を調整する。	a		
		英検の資格取得を積極的に促し、1年生で実用英語技能検定準2級取得を目標に、早い段階から英語力の向上を図り、検定に対応できるよう働きかける。	b		
		文理選択に向けてホームルームや進路行事をとおして進路選択について考える時間をとるとともに、オープンキャンパスや大学の模擬授業へ積極的に参加させる。また、生徒の特性や職業選択に合った文理分けができるように面談を実施する。	a		
文武両道を推進し、心身の健全な発達を図る。学校行事や部活動を通して、協調性や社会性、奉仕の心を養いながら人間力の向上を目指す。		部活動や生徒会活動への参加を促し、充実した学校生活が送れるように声かけや面談を行い、3年間継続できるように支援する。	a		
		部活動でしか学ぶことのできない礼儀や行動、考え方を通して人間力を養う。	b		
		学校行事をとおしてクラス内の団結を深めるとともに、達成感や充実感が実感できるようにサポートする。	a		

別紙様式2 (高)

2 学年	生活習慣の確立と高校生らしいマナーの向上に努める。	服装頭髪等の身だしなみを整える意識を高める。	a	B	<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒が身だしなみを崩しているが、多くの生徒は守ろうとする意識がある。 スマートフォンを休み時間中に使っている生徒がいまだに多い。継続して注意する。 英検等の外部試験に挑戦する生徒が多く、多くの生徒が合格することができた。
		授業の始業時や集会・教室移動・提出物期限等の時間に対する意識を高める。	b		
		スマートフォン類の使い方について、生徒自身がその特性をよく理解して場面に応じて正しく使いこなせるような自制心を育成する。	b		
	授業を大切にし、基礎学力の充実や家庭学習の習慣化、進路実現に向けての指導にあたる。	定期考査や模擬試験の結果を参考にしながら適切に学習指導や進路指導を行う。	b		
		今未来手帳を利用してPDCAサイクルを習慣化して、自律・自立を促す。	b		
		英検やGTECなど、外部検定に挑戦することを推進し、そのための環境を整える。	a		
	文武両道を実践し、学校行事や校外での活動への積極的な参加を推進する。	部活動と学業を両立していけるように、創意工夫する実践力を育てる。	b		
		学校行事や奉仕作業などを通して、周りと協力し、自主的に工夫して取り組む態度を育てる。	a		
3 学年	人間教育の土台である基本的な生活習慣の確立、モラルやマナーを身につけ、素直な心や他者を尊重する態度を育てる。	高校生らしい服装や頭髪を心掛け、集団生活におけるルールやマナー、時間や期限遵守などの基本的な生活習慣を身につけさせる。	a	B	<ul style="list-style-type: none"> 年内入試の大学も増え、総合型で受験する生徒が多くなった。生徒主体ではなく出願に関して吟味する必要性がある。来年度以降の参考になればと思う。 生徒の生活自体は非常に安定していたと思う。ただ、自主性に乏しく受け身になる場面が多く、アプローチの仕方を考える必要性を感じた。
		自立・自律する心を育てる。	b		
		面談や家庭との連絡を密にとり、生徒理解・支援に努め、学校生活や進路における不安を少しでも和らげることで、欠席率の低下を目指す。	a		
		交通ルールの遵守やマナーについて繰り返し注意を促し、登下校中の事故の予防を図る。	b		
	進路目標・自己実現の努力を通して、自己を見つめ、律し、伸ばそうとする態度を育てる。	進路実現に向けた学習の量及び質の向上を図る。短期・中期的な学習計画を立て、自らの意思で主体的に学習に取り組み、継続できる自己学習能力を育てる。	b		
		授業、集会による全体指導と個々に対応した個別指導や面談を効果的に織り交ぜながら、生徒自身が進むべき道を自らの力で選択できるよう支援する。	b		
		探究活動においては、将来を見据えた自己の学びロードマップが描けるように、研究で得た知識をもとに自己の関心分野への理解をさらに深めつつ、自己理解の深化や表現能力の向上を目指す。	b		
	文武両道をやり通すことで、心身の健全な発達や精神を鍛錬するとともに、社会性や奉仕の心も育みながら人間力の向上を目指す。	部活動や生徒会活動では、最高学年として、各部・各委員会の集団を牽引しながら、他者を思いやる心やリーダーシップの育成を目指す。	a		
		部活動と学業の両立を最後まで支援し、18歳成人として勉学以外の社会の中で必要なリーダーシップ能力、コミュニケーション能力、責任感、傾聴力の伸長を図る。	a		
		学校行事やボランティア活動、校外での体験活動への参加を促し、課題発見力、実践力を養う。	b		

※ 評価基準：A非常に良くできた Bよく出来た C普通 Dやや不十分 E不十分